

令和6年度 事業報告書

社会福祉法人 広虫荘

特別養護老人ホーム 広虫荘

(短期入所・デイサービスセンターひろむし)

特別養護老人ホーム 和気広虫荘 (短期入所)

ケアハウス わけ

グループホームひろむし

I. 会議、委員会の実施

(1) 役員会議については、以下の通りである。

理事会・評議員会については、概ね計画通りの実施ができ、事業計画・報告、補正予算計画、各規定等の改定、理事長の専決事項の報告等を行った。

① 理事会（理事6名）の開催

6年6月3日・6年11月25日・7年3月10日 年3回開催

② 評議員会（評議員7名）の開催

6年6月22日・6年12月11日・7年3月21日 年3回開催

③ 会計監査の実施

監事による監査 6年5月24日 に実施

(2) 苦情解決委員会を開催し、第三者委員に苦情及び事故等の報告を行い、客観的な視点でのアドバイスを受けた。

① 苦情解決委員会の開催（第三者委員：2名参加）

6年5月31日 に実施

(3) 各会議の開催について

コア会議、管理者会議、サービス課長会議、栄養士会議については概ね計画通り実施ができた。

① コア会議（理事長、施設長）毎週月曜日 9：00～10：00

② 管理者会議（理事長、施設長、事務長、課長）毎月 第一月曜日 9：30～10：30

II. 人材確保

外国人雇用 技能実習生の採用

令和6年7月1日付けで技能実習生2名を採用。内1名はN3（日本語能力）試験に合格しN2試験合格を目指している。採用当初に不安視していた日本人との人間関係は良好で、日本社会、自然環境等にも順応できている。

III. 地域における公益的な取り組みの推進

(1) 生活困窮者支援事業

① 食糧支援事業 暮らしサポート事業：（フードドライブの実施）

赤磐市暮らし・しごと応援センターとともに生活困窮者の自立生活を支援するため、食品の寄付募集を行い、配布を行った。

② おうち片づけサポート事業

赤磐市社会福祉協議会、赤磐市内の福祉施設職員と共に、ゴミの分別等ができず住宅内にゴミが溢れている障害者の自宅の片づけを行った。

③ 和気町社会福祉法人連絡協議会

生活困窮者のサポートとして、（フードドライブ）食料品等の寄附募集を行い、配布を実施した。

IV. 令和6年度 運営・事業の取り組み

(1) 運営状況

<広虫荘拠点>

区 分	特養広虫荘	短期	通所
利用定員 (人)	110	空床型	19
稼働日数	365	365	309
稼働率	86.9		32.3
1日の平均入居・利用者数 (人)	95.6		6.1
(目標値: 人/日)	105		15
利用延べ人数 (人)	34,901	99	1,894

特別養護老人ホーム広虫荘の年間稼働率を95%として運営を推進したものの、今年度も1月早々に新型コロナウイルス感染症によるクラスター(14人)が発生したこと、入院者数の延べ入院期間が昨年度の倍以上と多く(971日)、結果的に年間稼働率が86.9%となり目標を大きく下まわりました。

デイサービスセンターひろむしでは、目標の平均利用者数を15/日としていたが、新規利用者登録数3人に対して利用中止者数が4人となり目標を大きく下まわりました。

<和気広虫荘拠点>

区 分	特養和気広虫荘	短期入所
利用定員 (人)	100	空床型
稼働日数 (日)	365	365
稼働率 (%)	92.5	
1日平均利用者数 (人)	92.5	
(目標値: 人/日)	95.0	
利用延べ人数 (人)	33,779	0

特別養護老人ホーム和気広虫荘は、今年度の入所・退去者数は例年と同様で退去者31名・新入所者34名であったが、入院者は前年度と比べ、25%増加し入院者延べ1019人となった。

コロナウイルス感染症の発生によりスムーズな入所に至らなかった事により、最終的に年間稼働率が92.5%となった。

<ケアハウス拠点>

区 分	ケアハウスわけ
利用定員 (人)	30
稼働日数 (日)	365
稼働率 (%)	83.5
1日平均利用者数 (人)	25.2
(目標値: 人/日)	28.5
利用延べ人数 (人)	9,192

ケアハウスわけの今年度の稼働状況は、退去者18名に対し12名の新入居者となり、年度末現在入居者が24名と定員を大きく割った。また入院者も延べ820人により、稼働率が83.5%となり、目標の95%を大きく下回った。

〈グループホーム拠点〉

区 分	グループホームひろむし
利用定員（人）	18
稼働日数（日）	365
稼働率（%）	93.6
1日平均利用者数（人）	16.9
（目標値：人/日）	17.1
利用延べ人数（人）	6,112

グループホームひろむしの稼働状況は、今年度入院者が延べ317人と昨年度の1.7倍となった。また退去者7名に対し新入所者7名と例年のない入れ替わりとなった事で、年度末現在利用者17名により、稼働率も93.1%となった。

(2) 事業の取り組み

〈法人〉

- ・喀痰吸引等研修事業を実施し、4名の介護職員が「認定特定行為業務従事者」の認定を受ける。

〈広虫荘〉

法人としての年間テーマを踏まえ、以下の取り組みを行った。

- ・最後まで口から美味しく食べられるように食事形態については多職種連携を小まめに図り経口摂取を継続する事ができた。
- ・コロナ禍による入居者様とご家族様との係わりについて、岡山県内の感染状況に応じて予約なしでご家族に面会できるなど、コロナ禍以前のスタイルに徐々に戻す事ができた。
- ・生産性の向上について、インカム機器のデモンストレーションを実施するなど、令和9年度に向けて様々なテクノロジーの導入を試みた。
- ・認知症の理解を深める為に段階的な研修を3名が受講し、事業所内でのイニシアティブを担っている。また、将来的に全ての介護職員が研修を受講できるよう計画的に取り組んでいる。
- ・主に新採用職員及び技能実習生に対してOJTを活用した人材育成を実施した。
- ・危機管理体制強化の観点から、外部研修への参加（虐待、人権）、外部講師の現地研修（虐待防止及びハラスメント予防）を実施し、また、各種BCPの見直し、整備（備蓄庫の増設）を行った。
- ・ホームページ上にて適宜ブログを更新し、日頃の行事などを紹介した。また、夏祭り、芋ほり、お茶会など、季節行事を行った。
- ・介護サービスの質の確保のために、入居者のご家族様にアンケートを実施し、介護サービス内容の改善を客観的に検討する用意ができた。

〈和気広虫荘・ケアハウスわけ・グループホームひろむし〉

法人としての年間テーマを踏まえ、次の取り組みを行った。

- ・ただ生きることを支援するのではなく「善く生きること」を支援するために、入所者への丁寧な関わり方として、目線を合わせてゆったりとした口調（敬語）で接し、対話を心がけるようにし落ち着いたケアを前年度に引き続き行った。
- ・「口からおいしく食べられるように、楽しみを支援する」ために「食べることは」を改めて意識し、研修や演習の実施、ご本人の気持ち（意向）のうけとめにより重点を置きながら、主治医・歯科医との連携を行った。それらを具体的に活用できるよう多職種連携を前年度に引き続き取り組んだ。
- ・日常の中で個別ケアのために創意工夫ができるよう、より具体的な形で各委員会の活動を行い、サービス会議の活用等で入所者に満足して頂けるケアに努めるよう取り組んだ。同時に、職員の意欲の活性化にもつながった。

- ・従来の「当たり前」にとらわれず現状の見直しを行うことで職員の声を具体的に確認し「ムリ・ムダ・ムラ」をなくし改善に取り組んだ。
- ・余暇活動の充実として年間（四季折々）の大きな行事だけではなく、それぞれの趣味や個人の生活リズムに合わせてのグループ活動や個人活動に取り組んだ。いつでも余暇活動ができる環境の整備（自由に使える道具や空間の設置）担当者によるグループ活動の実施、施設周りの散歩や外気浴。
- ・ガーデニングや家庭菜園で育てる事、楽しむことを継続して実施（花の観賞、生け花、実食）
- ・毎月、全入所者の家族等へのお手紙の送付を継続して実施した。（インスタ・フェイスブックに適時掲載）
- ・面会時間、人数等の規制はあるが、対面での面会の継続実施
- ・地域活動への参加、地域とのコミュニケーションを継続的に行った。また、実習生や課外活動等の受け入れも継続して行えた。（医療福祉関係校の学生実習・高校生就業体験・地域協働探求プロジェクト）
- ・入居者やご家族との個人面談や茶話会の実施で入居者同士の関係緩和剤としての役割を果し、不安の解消になるよう努めた（ケアハウス）
- ・看取り期のケアは個別ケアをチームで行うこと、本人やご家族も一緒に関わることができた。また、死ぬことへの心配事軽減として本人含めての話し合いの実施（ケアハウス）にも取り組んだ。ご家族から「一緒に過ごせて安心しました」の声もあり「きちんと見送る」ことの思いを職員への返しとしてできたと思う。
- ・危機管理体制の強化として人権・ハラスメント・事故・感染症に関する研修の実施や外部研修への参加を行った。同時に職員の意識の向上に努めかくBCPの見直しや指針、マニュアルの確認を行った。

(3) 研修・委員会の実施状況

以下の通り、各研修、会議、委員会を実施した。

〈特養養護老人ホーム広虫荘・デイサービスセンターひろむし〉

① 会議委員会の実施状況

- ・運営会議 年11回実施〈特養・通所 合同実施〉
- ・衛生委員会 年11回実施〈特養・通所 合同実施〉
- ・入所検討委員会 年15回実施
- ・サービス会議 年11回実施
- ・身体拘束適正化委員会 年4回実施
- ・安全管理委員会 年1回実施
- ・感染症対策会議 年4回定期実施〈特養・通所 合同実施〉 年5回（随時実施）
- ・事故対策会議 年9回（随時実施）
- ・感染予防委員会 年11回
- ・身体拘束・虐待防止委員会 年11回実施
- ・事故・災害防止委員会 年11回実施
- ・褥瘡予防委員会 年11回実施
- ・レク・リハ広報委員会 年11回実施
- ・給食委員会 年11回実施
- ・排泄委員会 年11回実施

② 研修の実施状況

- ・消防訓練については、12月（消防署立会い）と3月に避難誘導（日中・夜間想定）訓練と消火、通報訓練を実施。なお、BCPについては、計画の見直しに留まり、実地訓練に於いては、火災時の避難誘導訓練、又は、感染症クラスター発生時に行った。

- ・全職員に対して「虐待の芽アンケート」を年2回行い、その結果をグループワークで検討し改善策を実行。また、高齢者虐待防止の基礎知識について外部講師を招き、アンガーマネジメントから業務中の感情コントロールを学ぶ。
- ・原因が特定できない骨折事故を受け、推定要因とされる移乗介助時及び着脱介助時の基本的な介助方法について、動画と実地研修（3回に分けて）を実施。また、委員会独自の研修（表皮剥離）を6月に実施。
- ・褥瘡予防に関する施設内研修を8月と3月に実施。
- ・ハラスメントの基礎知識について外部講師を招き、グループワークを主としたロールプレイングを実施。
- ・協力医療機関の看護師を招き、施設内をラウンドしながら感染対策の実地指導を受ける。また、協力医療機関が実施する感染症対策の研修に感染症予防委員会のメンバー2名が参加。その他、6月と10月に感染症予防委員会による感染状況に応じた施設内研修を実施。

<特別養護老人ホーム和気広虫荘・ケアハウスわけ・グループホームひろむ>

① 会議委員会の実施状況

- ・職員会議 年12回〈特養・ケアハウス、グループホーム 合同実施〉
- ・運営会議 年12回〈特養・ケアハウス、グループホーム 合同実施〉
- ・サービス会議 年12回〈特養・ケアハウス、グループホーム 合同実施〉
- ・身体拘束等適正化委員会 年4回実施〈特養・ケアハウス、グループホーム 合同実施〉
- ・安全管理委員会 年4回実施〈特養・ケアハウス、グループホーム 合同実施〉
- ・事故災害防止委員会 年4回〈特養・ケアハウス、グループホーム 合同実施〉
- ・褥瘡対策委員会 年4回〈特養・ケアハウス、グループホーム 合同実施〉
- ・身体拘束廃止虐待防止委員会 年4回〈特養・ケアハウス、グループホーム 合同実施〉

<特別養護老人ホーム和気広虫荘>

- ・入所検討委員会 年間18回
- ・感染症対策委員会 年6回
- ・研修委員会 年12回
- ・サービス向上委員会 年12回
- ・レクリハ広報委員会 年12回
- ・入浴委員会 年12回
- ・生活環境委員会 年12回
- ・排泄委員会 年12回
- ・口腔ケア委員会 年12回
- ・給食委員会 年6回
- ・地域ケアカフェ委員会 年6回

② 研修の実施状況

- ・すきま研修 年7回他:OJTを活用した自主的研修の実施
（委員会や職種主導で1回3～40分の実施）（計画・実施・評価・実施⇒繰り返し）
- ・BCP（自然災害）1回実施 東備消防立ち合い（R7年3月24日）実施
（感染症）1回実施（R6年8月13日）訓練実施
- ・施設内研修 年12回実施

〈ケアハウスわけ〉

① 会議委員会の実施状況

- ・職員会議 12回
- ・感染症対策委員会 年7回
- ・地域ケアカフェ委員会 年6回

② 研修の実施状況

- ・すきま研修 年7回他:OJT を活用した自主的研修の実施
(委員会や職種主導で1回3～40分の実施) (計画・実施・評価・実施⇒繰り返し)
- ・BCP (自然災害) 1回実施 東備消防立ち合い (R7年3月24日) 実施
(感染症) 1回実施 (R6年8月13日) 訓練実施
- ・内部研修 年12回実施

〈グループホームひろむし〉

① 会議委員会の実施状況

- ・職員会議 12回
- ・感染症対策委員会 年2回
- ・地域ケアカフェ委員会 年6回

② 研修の実施状況

- ・すきま研修 年7回他:OJT を活用した自主的研修の実施
(委員会や職種主導で1回3～40分の実施) (計画・実施・評価・実施⇒繰り返し)
- ・BCP (自然災害) 1回実施 東備消防立ち合い (R7年3月24日) 実施
(感染症) 1回実施 (R6年8月13日) 訓練実施
- ・内部研修 年12回実施